



- 視察日時 令和2年11月6日(金) 午前9:30～午後4:45 ※市マイクロバスで移動
- 視察委員 ◎平井登 ○神戸好伸 大石信生 植田裕明 鈴木岳幸 山川智己
- 調査事項 《市内観光資源の魅力再確認と現状の課題及び今後の活かし方》
- 視 察 先 ①明治トンネル ②つたの細道公園 ③大旅籠柏屋 ④玉露の里・瓢月亭 ⑤大久保キャンプ場
・グラススキー場 ⑥陶芸センター ⑦陶芸村構想建設予定地と瀬戸谷温泉ゆらく
- 案 内 人 前岡部町教育委員会・社会教育指導員 池谷圭次先生 ※岡部町エリアのみ
- 執行部 <午前の岡部地区>商業観光課・課長 <午後の瀬戸谷地区>中山間地域活性化推進課・課長 他

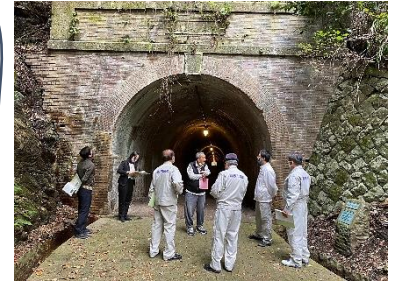
■観光資源としての魅力について【岡部町】

古くから交通の難所として知られた宇津ノ谷峠地区は、古代～中世の峠道、近世の峠道、近代の隧道(明治・大正)、そして現代の隧道(昭和・平成)が開削、掘削されながら東西交通の要衝地としての歴史を刻んで来ている。

本年、日本遺産に認定された「弥次さん喜多さん、駿州の旅」を実感しながらタイムトリップできる貴重な場所で、現存する古道や隧道の果たして来た役割や先人の苦難の足跡を知ることができる。また、東海道五十三次21番目の宿場町の佇まいや往時の暮らしを学べる大旅籠柏屋など、街道の歴史資源が大変豊富なエリアである。

①明治トンネル 国登録有形文化財

同トンネルは、明治7年(1874)、交通の利便性を向上させるために地元の有力者7人が発起人となって工事を開始し、明治9年6月に完成。日本最初の有料トンネルとして使用された。その後の火災で崩壊したが、明治37年に赤レンガ造りのトンネルに生まれ変わっている。現在は、カンテラ風の電燈が情緒を醸し、清涼な空気の流れに誘われ、静岡側の家並みや岡部側の公園、峠越え古道「鳶の細道」へと足を進められるよう、コース案内看板が随所に設置されている。



②つたの細道公園

千年以上前から開削され、戦国末期までの主要道であった「鳶の細道」の岡部側に、平成15年に整備完成された。木和田川と遊歩道を組み合わせた親水公園で、明治時代に西洋技術を取り入れたロックフィルダム工法(巨石積堰堤)により造られた堰堤が上流に向かって8基残っている。閑静な佇まいで、ハイカーにとって居心地の良い休憩場所である。界隈の日本遺産認定により、行楽シーズンには賑わいを見せると思うが、地元活性化団体等の出店が欲しいところだ。



③大旅籠柏屋 国登録有形文化財(市直営)

岡部宿を代表する旅籠・柏屋を経営していた山内家は、旅籠と質屋を兼業し、田畑の集積も進め、その富を背景に代々問屋や年寄などの宿役人を務めた名家であった。屋敷内には、なまこ壁造りの大型の蔵が2戸前残り、ギャラリーやカフェとして活用されている。主屋は歴史資料館として、往時の暮らしがわかるよう工夫され、史料の展示もバラエティーに富んでいる。また、建造物としての趣の深さにも魅了される。宇津ノ谷峠周辺との回遊性が課題ではある。



④玉露の里・瓢月亭 (指定管理者:株静鉄リテイリング)

日本三大玉露産地「岡部朝比奈」のフラッグシップとして、平成21年に開設された。当初は地元の振興団体が管理運営していた。その後、指定管理者制となり、現在は株静鉄リテイリングが運営する。朝比奈川の清流を挟む広大な敷地に茶室「瓢月亭」、日本庭園、物産館、レストラン等が里山の風景に馴染むように配置されている。コロナ禍でインバウンドはじめ来訪者は激減したが、玉露や抹茶を核に茶文化発信拠点としての役割と期待は今尚大きい。



■観光資源としての魅力について【瀬戸谷】

本市の28.5%もの面積を占める瀬戸谷地区は、農林業を基盤としてきた長い歴史と自然環境に恵まれた農村地域である。しかし、戦後の産業構造の変化とともに若者の都市部への流出が進み、人口減少と少子高齢化、農林業の衰退は著しくなっている。平成に入って以降、同地域の活性化と市民福祉向上を目的に、瀬戸谷温泉や大久保キャンプ場、陶芸センター等が、地元住民で組織される指定管理者の形態で運営され、地域振興に寄与している。地方創生の潮流に乗った、農業と自然を活かした体験型の観光資源エリアとしてのポテンシャルは高い。

⑥大久保キャンプ場・グラススキー場（指定管理者：大久保振興会）

瀬戸谷の自然を満喫するならここ！子育て世代を中心に近年は、施設の充実とともに利用者が大幅に増えていて、キャンプ場、グラススキー場、BBQハウスの合計利用者数は平成18年に比べ倍増している。（H18:11,737人⇒R1:23,708人）人気の高いコテージはウィズコロナ、ポストコロナ時代に応えるワーケーションの場としてWi-Fi環境を整備し、首都圏企業にPRしていく予定。



⑦陶芸センター（指定管理者：株陶芸センター）

平成元年、「農村と都市の交流促進、生涯学習の推進及び地域産業の活性化を図る」ことを目的に建設されてから32年の歳月を重ねている。平成18年以降は、年々利用者が増え、14年間の間に倍増（4,411人⇒9,607人）している。駐車場不足や土砂災害警戒区域にあるため、移転拡充が求められていた。また、世界的に活躍する陶芸家や地域おこし協力隊員、地元の指定管理者が一丸となった経営努力が、北村市長に高く評価され、今般の陶芸村構想に繋がっている。



⑧陶芸村建設予定地と瀬戸谷温泉ゆらく（指定管理者：株ふるさと瀬戸谷）

9月定例会議、補正予算審議で可決した陶芸村構想の建設予定地は、「ゆらく」の南側と北側にある農地を活用するもので、完成後の総面積は現在の約1.7倍となる。年間利用者数、約17万人ある「ゆらく」との相乗効果を狙うとともに、「道の駅」へと格上げを目指す事業でもあり、さらなる地域振興への期待は大きい。「ゆらく」の経営は、春先の施設修繕休業や4月以降のコロナ禍により入館者が減る中、指定管理者の人事刷新等で改善が図られている。また、食堂も市内で居酒屋を展開する「株すぎ多本舗」に変わり、評判の味を提供してくれる。



■課題と今後の活かし方について

- つたの細道公園は、「鶯の細道」へと続く静寂なアプローチ空間であるが、水車小屋、吊り橋が老朽化により使用されていない。また、施設全般の利活用も不十分なことから、日本遺産関連のイベント等を開催されたい。
- 大旅籠柏屋の存在感に比して、内野本陣史跡は史跡説明看板や復元ジオラマ等がないので整備が必要。
- 「玉露の里」指定管理者のグループ会社、静鉄観光サービスが令和3年3月末で解散するが、その影響が心配である。この機に、地元振興団体の復活・再興を支援されたらどうか。
- コロナ禍の影響をよそに、順調な予約が入る大久保キャンプ場と一連施設は、今後も好況が予想される。一方で、県道220号（蔵田島田線）の拡幅整備や危険箇所への防護柵工事が、以前から強く求められている。
- 「陶芸村+ゆらく=道の駅」を成功させるために、地元との意見調整や庁内PTのアイデア等で、独創性ある施設整備が求められる。玉露の里と共通する清流（瀬戸川）を挟んだ自然体験施設も地元では望まれている。

■その他(感想・意見)

- 新型コロナの影響で、他自治体への行政視察が行えないために、市内の所管事務調査に切り替えた。中山間地域の歴史観光資源と自然観光資源が、岡部地区と瀬戸谷地区に、明確に色分けられていることが面白い。
- 今後、本市の市街化地域や中心市街地の環境課題、商店街の課題等についても現地視察を行ってみたい。